

【東北マリンサイエンス拠点形成事業】

東日本大震災の津波・地震による多量のガレキの堆積や藻場の喪失、岩礁への砂泥の堆積により、東北沖では沿岸域の漁場を含め海洋生態系が激変しました。漁業及び水産業の復興に資するため、大学等による復興支援のためのネットワークとして「東北マリンサイエンス拠点」を構築し、東北沖の海洋生態系の調査研究及び新たな産業の創成につながる技術開発を実施しています。海洋生態系の調査研究については、東北大学、東京大学、海洋研究開発機構が中心となって、水温・塩分といった海洋環境や魚介類の生息状況、海底のガレキの分布状況等を調査し、地元の漁業関係者に調査結果を提供するとともに、得られたデータを総合的に解析して海洋生態系の変化メカニズムを解明し、科学的知見に基づいた新たな漁業モデルを提案することを目指しています。

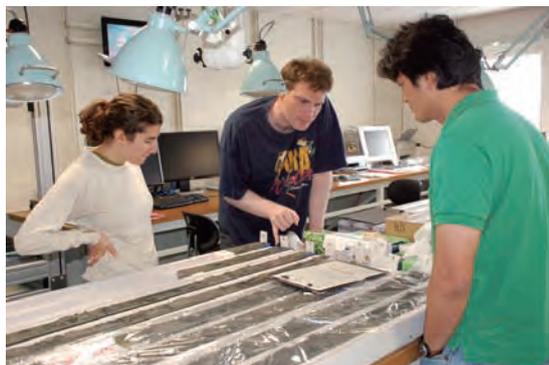


地震による生態系への影響を調査

【国際深海科学掘削計画 (IODP : International Ocean Discovery Program)】

国際深海科学掘削計画 (IODP) は、日本、米国、欧州が主導する多国間科学研究協力プロジェクトです。IODP では、日本の地球深部探査船「ちきゅう」や米国の「ジョイデス・レゾリューション号」等を用いて世界の海底を掘削し、地質試料（掘削コア）の回収・分析や孔内観測装置の設置によるデータ解析などの研究を行うことで、地球や生命の謎の解明に挑戦しています。海底から回収された掘削コアは、高知県など世界の3か所にある保管施設に分配・収蔵され、研究や教育への利用のために提供されています。

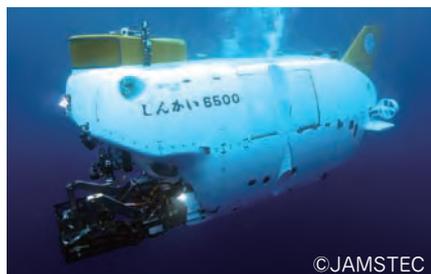
地球深部探査船「ちきゅう」は、これまでに科学掘削の世界記録を達成するとともに、IODPの研究航海として、沖縄県の海底熱水域や青森県下北八戸沖の石炭層での海底下生命圏の掘削、東北地方太平洋沖地震の震源域の掘削、南海トラフ地震発生帯の掘削を行っています。東北地方太平洋沖地震の震源域の掘削調査により、想定外の巨大津波を引き起こした地震の発生メカニズムが解明されました。



地質試料分析のようす ©JAMSTEC

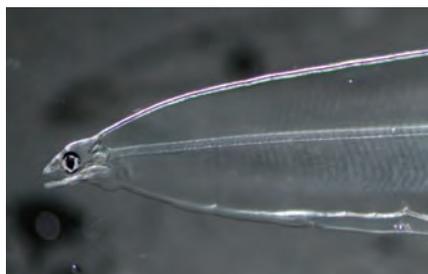
主な海洋研究機関の紹介

国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC) : 海洋に関する基盤的研究開発、海洋に関する学術研究に関する協力等の業務を総合的に行い世界最先端の研究と技術開発を推進します。



有人潜水調査船「しんかい6500」

国立研究開発法人水産総合研究センター : 水産に関する基礎から応用、実証まで一貫した研究開発と個体群の維持のためのサケ・マス類のふ化・放流などを総合的に行う組織です。



人工ふ化ウナギ仔魚 (全長46mm)

国立研究開発法人海上技術安全研究所 (NMRI) : 船舶技術に関する中核的研究機関として、海上交通の安全及び効率の向上、海洋環境保全のための技術に関する研究等に取り組んでいます。



世界最大級の曳航水槽